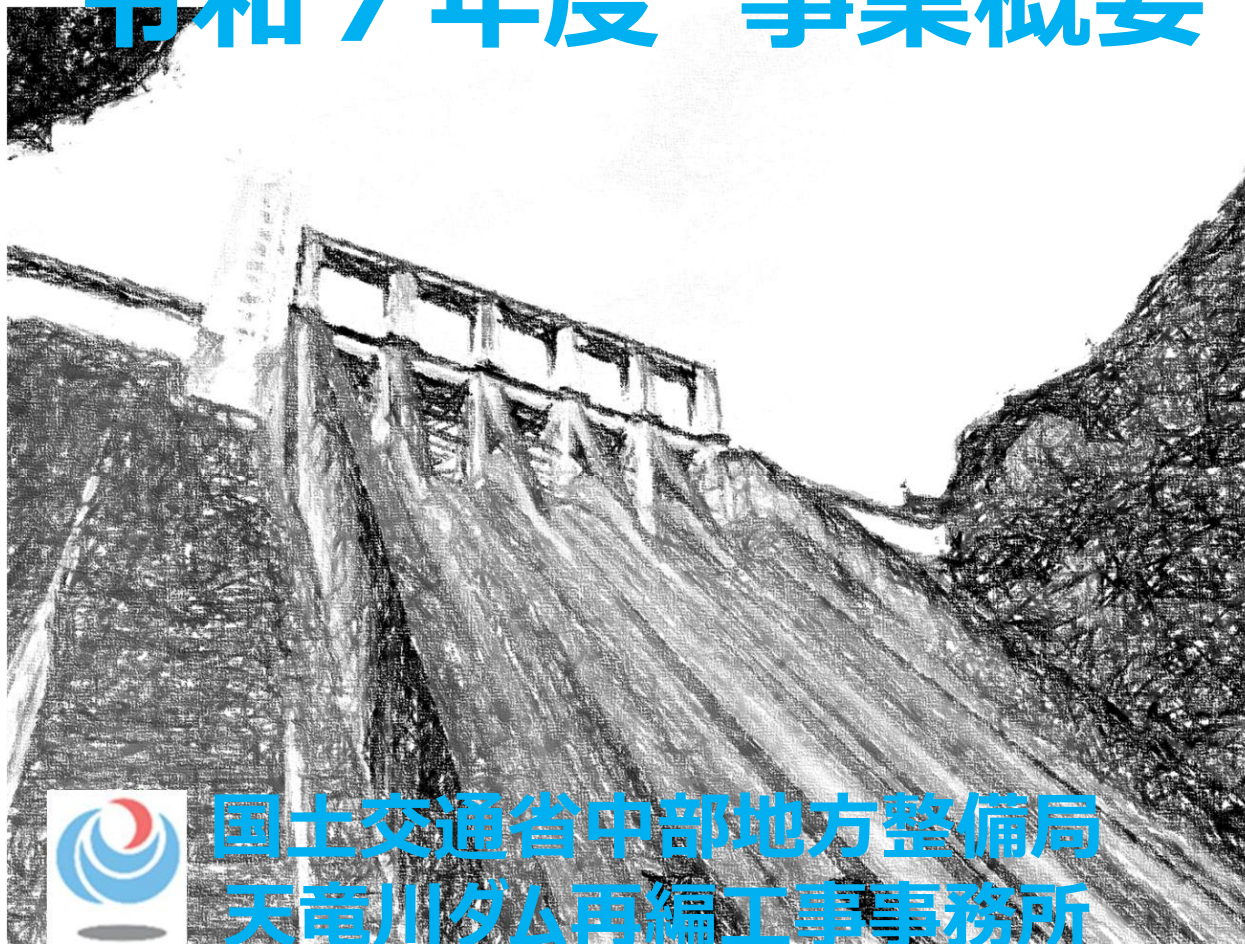


令和7年度 事業概要



国土交通省中部地方整備局
天竜川ダム再編工事事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism,
Chubu Regional Development Bureau
Tenryugawa Dam Realignment Implementation Office

天竜川流域の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
天竜川沿川地域の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2
近年の主な災害実績（洪水）・・・・・・・・	3
土砂移動の課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4
事業の目的及び計画内容・・・・・・・・	5
事業の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・	6
事業の効果（洪水調節）・・・・・・・・	7
事業の効果（恒久的な堆砂対策）・・・・・・・・	8
事業実施内容・・・・・・・・	9
事業工程・・・・・・・・	10
全体工程と進捗状況・・・・・・・・	11
地域との連携・・・・・・・・	13
令和7年度事業実施内容・・・・・・・・	15

天竜川流域の概要

- 天竜川は、幹川流路延長約213km、流域面積5,090km²の我が国で有数の大河川である。
- 流域には、約163万人（10市12町15村）の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の基盤を築いてきた。

佐久間ダム（電源開発(株)S31完成）

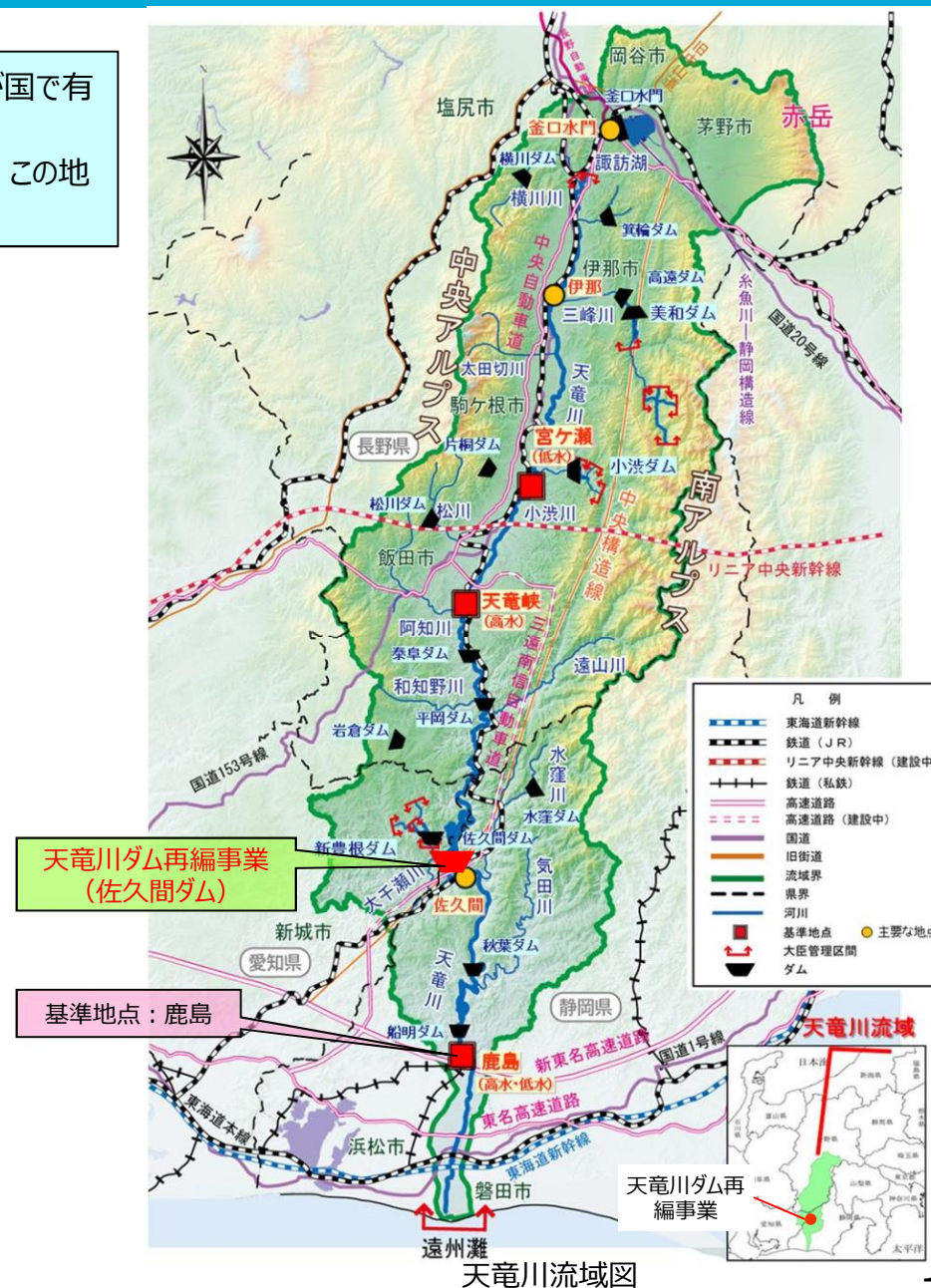


天竜川の流域概要

流域面積	5,090km ²
幹川流路延長	約213km
流域市町村数	10市12町15村※1
主要都市	飯田市（約10万人）※2 浜松市（約80万人）※2
流域関係市町村人口	約163万人※2

※1 諏訪市、伊那市、飯田市（長野県）、浜松市、磐田市（静岡県）等

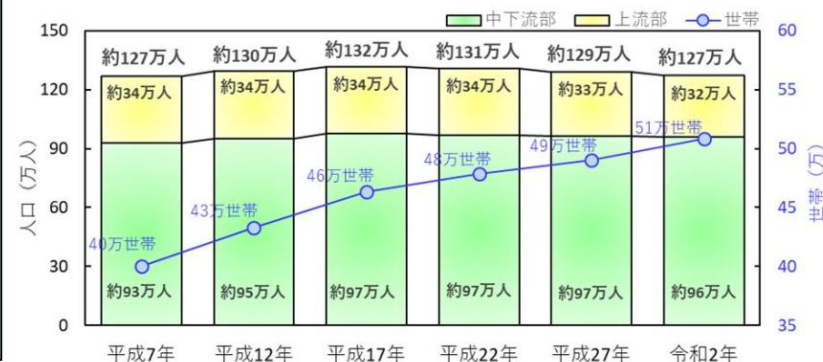
※2 人口の出典：国勢調査（令和2年）



天竜川流域図

- 天竜川沿川市町村の人口に近年大きな変化はなく、下流氾濫域（浜松市、磐田市）では、市街地が形成され人口が集中している。
- 天竜川下流流域内は、東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線等、東西を結ぶ、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。
- 平成24年4月から新東名高速道路が開通し、さらに令和9年度には全線開通予定など、新たな交通網の整備が進んでいる。
- 浜松市並びにその周辺地域を含む浜松地域は、自動車産業、オートバイ産業、楽器産業が盛んであり、日本有数の「ものづくりのまち」として発展しており、日本経済を支える重要な地域となっている。

天竜川沿川市町村の人口推移

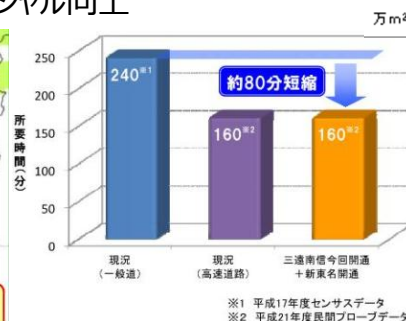


沿川市町村（15市町村）：浜松市、磐田市、飯田市、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、松川町、高森町、宮田村、中川村、喬木村、豊丘村、南箕輪村、箕輪町、辰野町（出典：令和2年国勢調査）

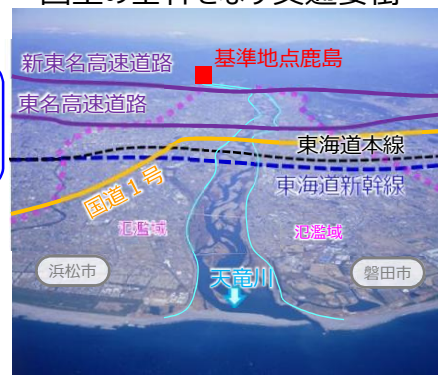
三遠南信自動車道による地域経済ポテンシャル向上



出典：三遠南信自動車道（鳳来峡IC～浜松いなさ北IC）
開通による整備効果の具体例



国土の基幹をなす交通要衝



遠州地域の産業と全国シェア

主な産業	全国比率
軽四輪自動車	51.0% ^{※1}
二輪車	44.5% ^{※2}
楽器（ピアノ）	100.0% ^{※3}

※1 浜松経済指標 2025
一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025
※3 Myしずおか日本一 一覧表

二輪車生産台数全国比率^{※1}



軽四輪車生産台数全国比率^{※2}



遠州地域：浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、掛川市、菊川市、御前崎市、周智郡森町

※1 浜松経済指標 2025、一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025

近年の主な災害実績（洪水）

- 天竜川では、これまで幾度も洪水による被害を受けてきた。戦後最大規模となる昭和58年9月洪水では、旧天竜市（現浜松市天竜区）などで甚大な被害が発生した。
- 令和5年6月（台風第2号）洪水では、天竜川本川下流部において洪水被害は発生していないものの、鹿島地点において観測史上第2位となる $10,685\text{m}^3/\text{s}$ を記録し、中ノ町水位観測所において氾濫危険水位（3.40m）に迫る3.31mを観測した。
- また、静岡県磐田市を流れる二級河川敷地川の破堤により、床上7件、床下13件の被害が発生した。

＜主要洪水被害一覧＞

発生年月	気象要因	被害の内容
昭和43年 8月	台風10号	死者・行方不明者5名、全壊・流失17戸、半壊・床上浸水746戸、床下浸水912戸、浸水面積346.1ha
昭和57年 7月	台風10号	床上浸水100戸、床下浸水319戸、浸水面積75.4ha
昭和58年 9月	台風10号	死者・行方不明者3名、全壊・流失・半壊4戸、床上浸水64戸、床下浸水21戸、浸水面積56.3ha

出典：静岡県異常気象災害誌（静岡県産業気象協会・静岡県地方気象台編）、水害統計（国土交通省河川局）、静岡県地震防災センターH P内「静岡県の災害年報」
注）表中は静岡県内および愛知県内の被害を指す。

令和5年6月出水の状況

鹿島観測所付近の状況



平常時



洪水時



浜松市南区老間町地先
（安間川付近の状況）



磐田市敷地地区
（敷地川の状況）

＜水防団待機水位を超過した観測所＞（単位：m）

水系名	観測所名	今回※1 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位
天竜川	かしま 鹿島	06/03 00:00 4.58	2.20	3.50	5.60	6.00	8.77
	いけだ 池田	06/03 00:50 3.61	0.50	1.60	3.61		4.53
	なかのまち 中ノ町	06/03 00:40 3.31	0.60	1.60	3.10	3.40	4.77
	かけつか 掛塚	06/03 01:10 4.25	1.50	2.60	4.25		5.28

※最高水位は速報値（10分単位）



S43.8洪水：浜松市天竜区



S57.8洪水：浜松市鹿島橋付
近



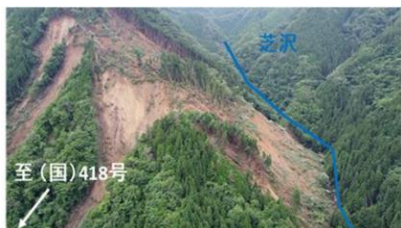
S58.9洪水：浜松市天竜区

- 天竜川流域は、急峻な地形と脆弱な地質構造により幾多の土砂災害が発生しており、砂防堰堤の整備などの土砂流出対策を実施。
- 急流で水量も豊富で、大規模な水力発電にも適していることから、治水・利水を目的とした多数のダムが建設されてきたが、堆砂によるダムの貯水機能の低下や、ダムによる土砂移動の連続性が遮断される課題が発生。
- 海岸への流出土砂量の減少により、中田島砂丘やアカウミガメの産卵で知られる遠州灘沿岸では、海岸侵食が進行。

土砂災害と土砂流出対策



土砂生産元の例
(荒川大崩壊地：長野県)

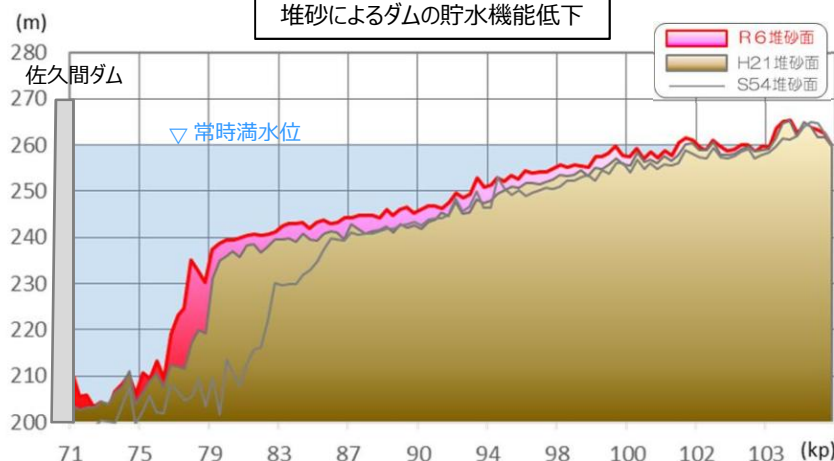


令和2年7月豪雨により土砂崩落
(天龍村足瀬：長野県)

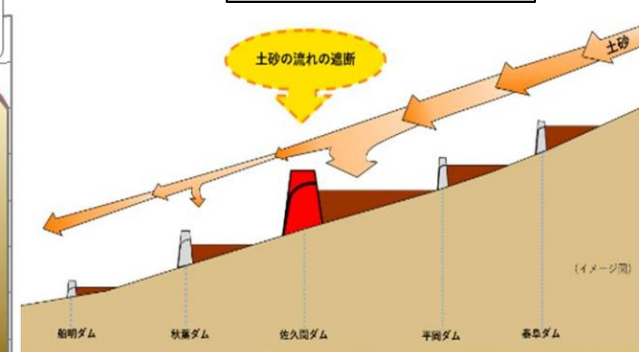


土砂流出対策
(砂防堰堤の設置)

堆砂によるダムの貯水機能低下



土砂移動の連続性の遮断



遠州灘沿岸の侵食



堆砂によるダムの機能低下の例 (湖内の陸上掘削)



(1) 事業の目的

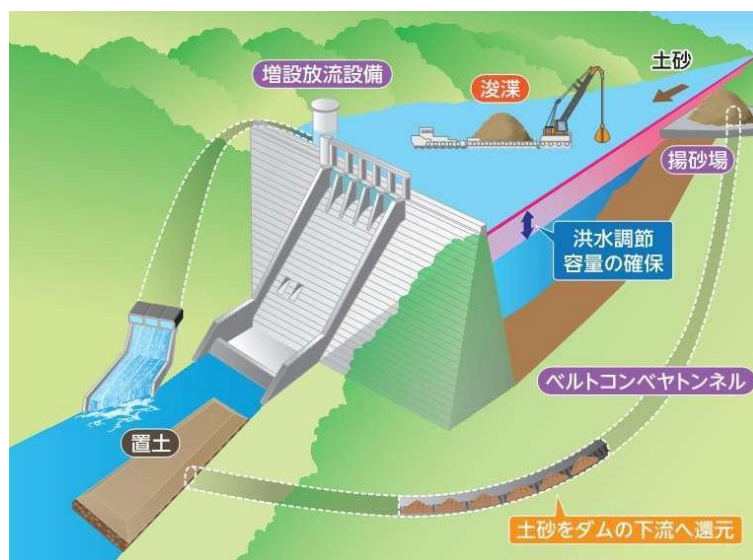
- 既設の利水専用ダム（佐久間ダム；昭和31年(1956年)完成、電源開発(株)）を有効活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。
- 佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等への寄与を目指す。

(2) 計画内容

- 洪水調節
佐久間ダムに新たに洪水調節容量を確保し、放流設備の増強を行う。
- 恒久的な堆砂対策
洪水調節容量を維持し、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元するための堆砂対策施設の整備を行う。
- 実施箇所（天竜川水系天竜川）右岸 愛知県北設楽郡豊根村
左岸 静岡県浜松市天竜区佐久間町
- 事業費：約1,900億円
- 工期：平成16年度～令和20年度

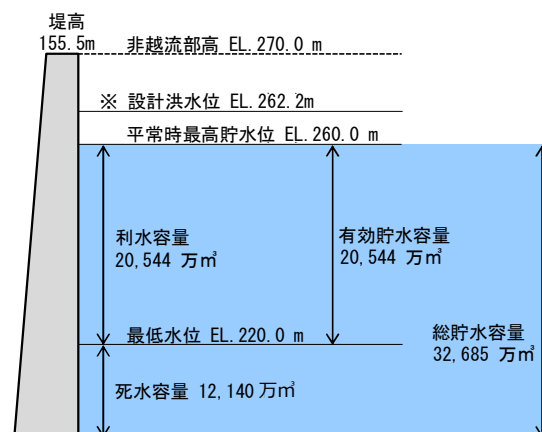
既設佐久間ダム 諸元

形式	重力式コンクリートダム
堤高	155.5m
総貯水容量	32,685万 m^3

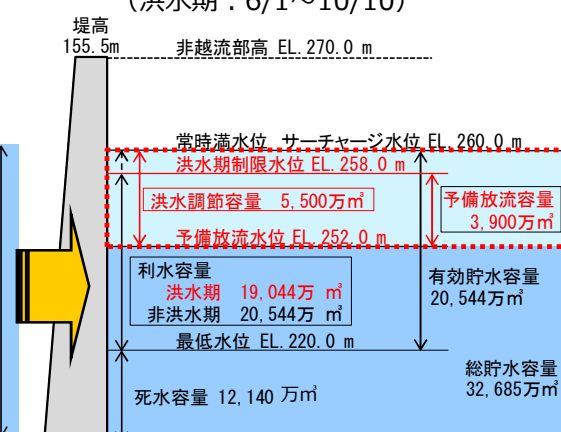


天竜川ダム再編事業のイメージ

〈現在の貯水池容量配分図〉



〈再編後の貯水池容量配分図〉 (洪水期：6/1～10/10)



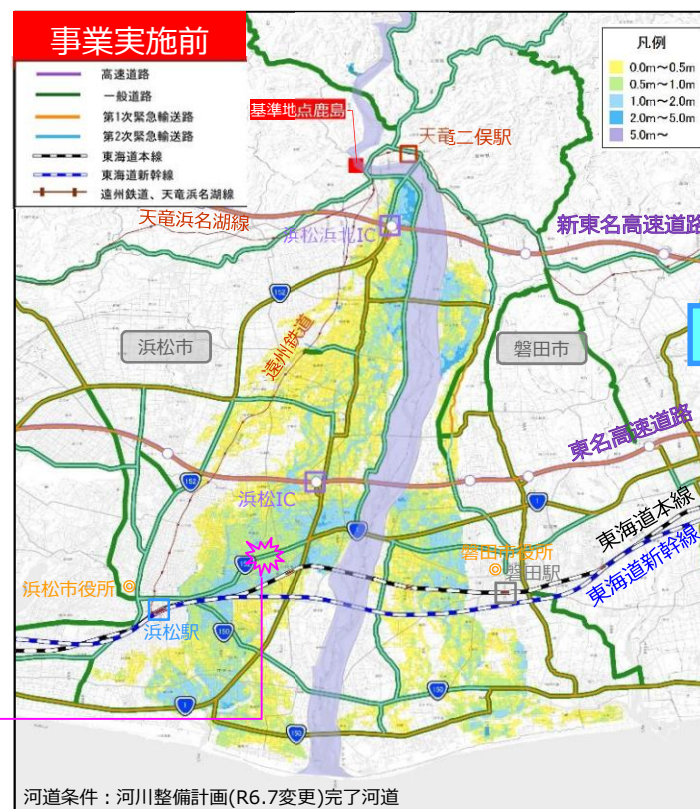
※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

昭和31年	10月	佐久間ダム（電源開発）完成
平成16年	4月	実施計画調査に着手
平成20年	7月	天竜川水系河川整備基本方針策定
平成21年	4月	建設事業着手
	7月	天竜川水系河川整備計画策定
平成21年 ～ 平成25年		天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会設置（全10回） ・（H25.2とりまとめ）堆砂対策工法として計画している吸引工法は、実証実験の結果佐久間ダムでの適応が困難
平成24年	7月	事業評価監視委員会にて審議（事業継続）
		対応方針：天竜川の治水安全度の向上のために、新たな洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討するとともに、引き続き恒久堆砂対策施設について検討を進めていくこととする。
平成28年 ～ 令和2年		天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会設置（全6回） ・（R2.2とりまとめ）堆砂対策工法の決定：吸引工法 → ベルトコンベヤ等を用いた置土、流入部土砂対策
令和2年	6月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（R2.9対応方針（事業継続）を決定） ・工期延伸：令和3年度 ⇒ 令和13年度 ・吸引工法→ベルトコンベヤを用いた置土、流入部土砂対策（事業費は精査中のため変更せず）
令和5年	12月	天竜川水系河川整備基本方針を気候変動を踏まえて変更
令和6年	4月	天竜川ダム再編工事事務所の開設
令和6年	7月	天竜川水系河川整備計画変更
令和7年	7月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（R7.8対応方針（事業継続）を決定） ・事業費変更：約790億円 ⇒ 約1,900億円 ・工期延伸：令和13年度 ⇒ 令和20年度

- 気候変動後の状況下において、戦後最大規模と同規模の洪水により想定される浸水が発生した場合の被害は、浸水面積約9,200ha、被災人口約24.4万人、浸水家屋数約9.7万世帯と想定。
- 既存施設での洪水調節を含め、基準地点鹿島において、河道配分流量を約16,400m³/sから約14,400m³/sに低減。
- 天竜川ダム再編事業の実施及び河川整備計画（R6.7変更）にもとづく河川改修により浸水被害を概ね解消。



浸水のイメージ（国道152号）



浸水面積	約9,200ha
被災人口	約24.4万人
浸水家屋数	約9.7万世帯



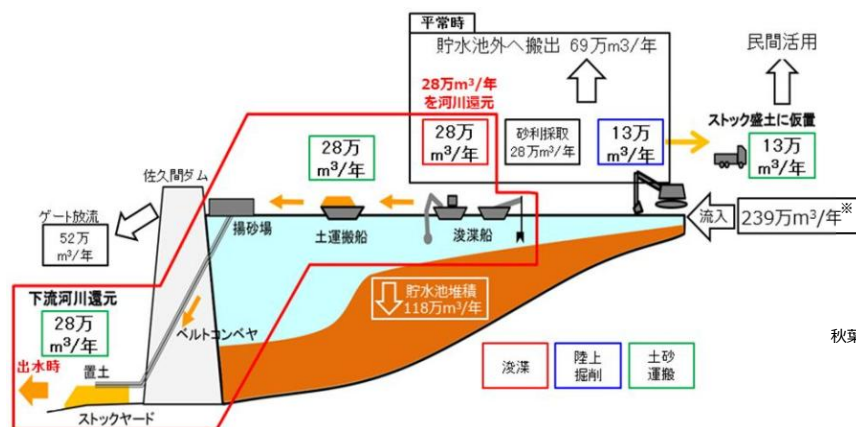
浸水面積	48ha
被災人口	14人※
浸水家屋数	0世帯

※浸水区域内人口及び最大孤立者数は、計算メッシュ内に浸水域がある場合にメッシュ内人口から算出されるため、事業実施後の浸水域内人口及び最大孤立者が計上されているが、土地利用が牧草地利用のみであり人的被害は解消される。

事業の効果（恒久的な堆砂対策）

- 天竜川ダム再編事業にて実施する恒久的な堆砂対策は、佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、洪水時の背水による貯水池上流部における水位上昇の防止・軽減を目的に実施。
- 恒久的な堆砂対策により貯水池から浚渫した土砂は、ダム下流河川へ還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等へ寄与。
- 置土より河川に還元した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定。

■ 恒久的な堆砂対策



※佐久間ダムへの流入土砂量（239万m³/年）は、上流ダム群（美和ダム、小渋ダム、松川ダム）の排砂操作を考慮した場合に想定される土砂量。
佐久間ダム貯水池内の土砂収支量は、佐久間ダム貯水池運用及び上流ダム群の排砂実績等によって今後変更する可能性がある。

出典 恒久的な堆砂対策イメージ図に第6回 天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会（令和2年2月6日）において審議された土砂収支（年平均）を記載。

河川に還元（置土）した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定

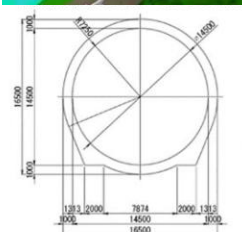
■ 遠州灘海岸侵食の状況



■ 河川管理者、海岸管理者と連携して対策を推進



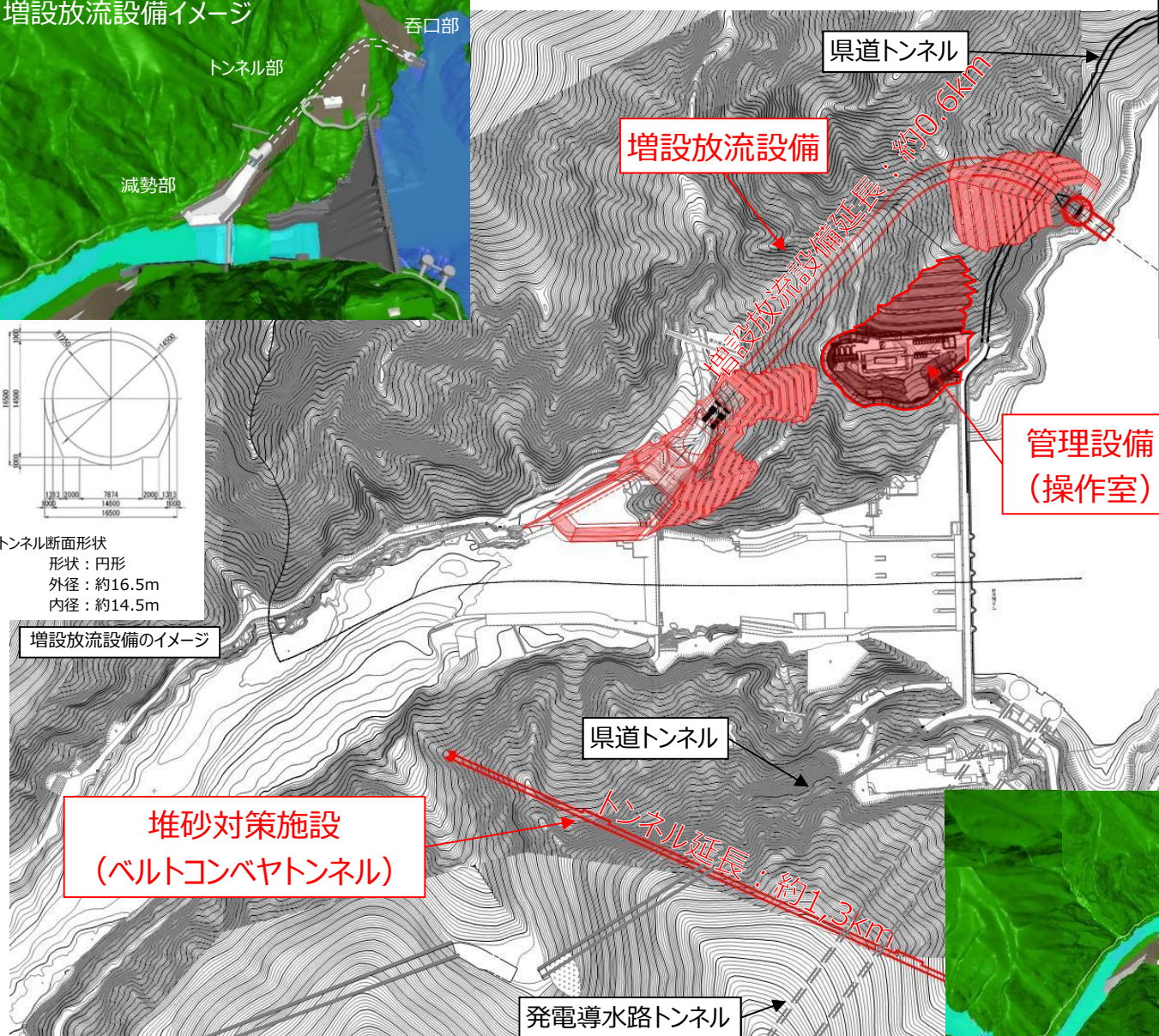
出典 第4回天竜川流域系総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】資料に補足説明を追記



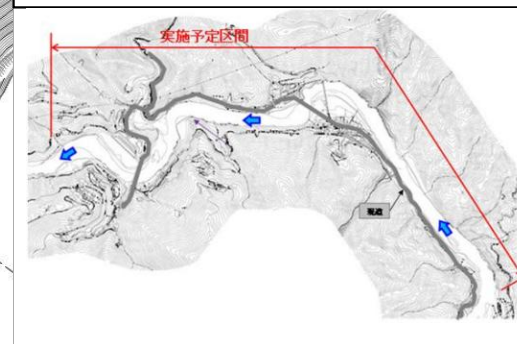
トンネル断面形状

形状：円形
外径：約16.5m
内径：約14.5m

増設放流設備のイメージ



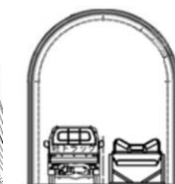
佐久間ダム上流部を通過する土砂をダム湖内に導入しやすくする河道形状整形



佐久間ダム湖上流部の水位上昇を防止・軽減し効率的に堆砂対策を行うため、ダム湖上流部を通過する土砂をダム湖内に導入しやすくする河道形状整形を追加。

管理設備
(操作室)

トンネル延長：約1.3km
トンネル断面：高さ約5m×幅約4m



ベルトコンベヤトンネルのイメージ

堆砂対策施設
(ベルトコンベヤトンネル)

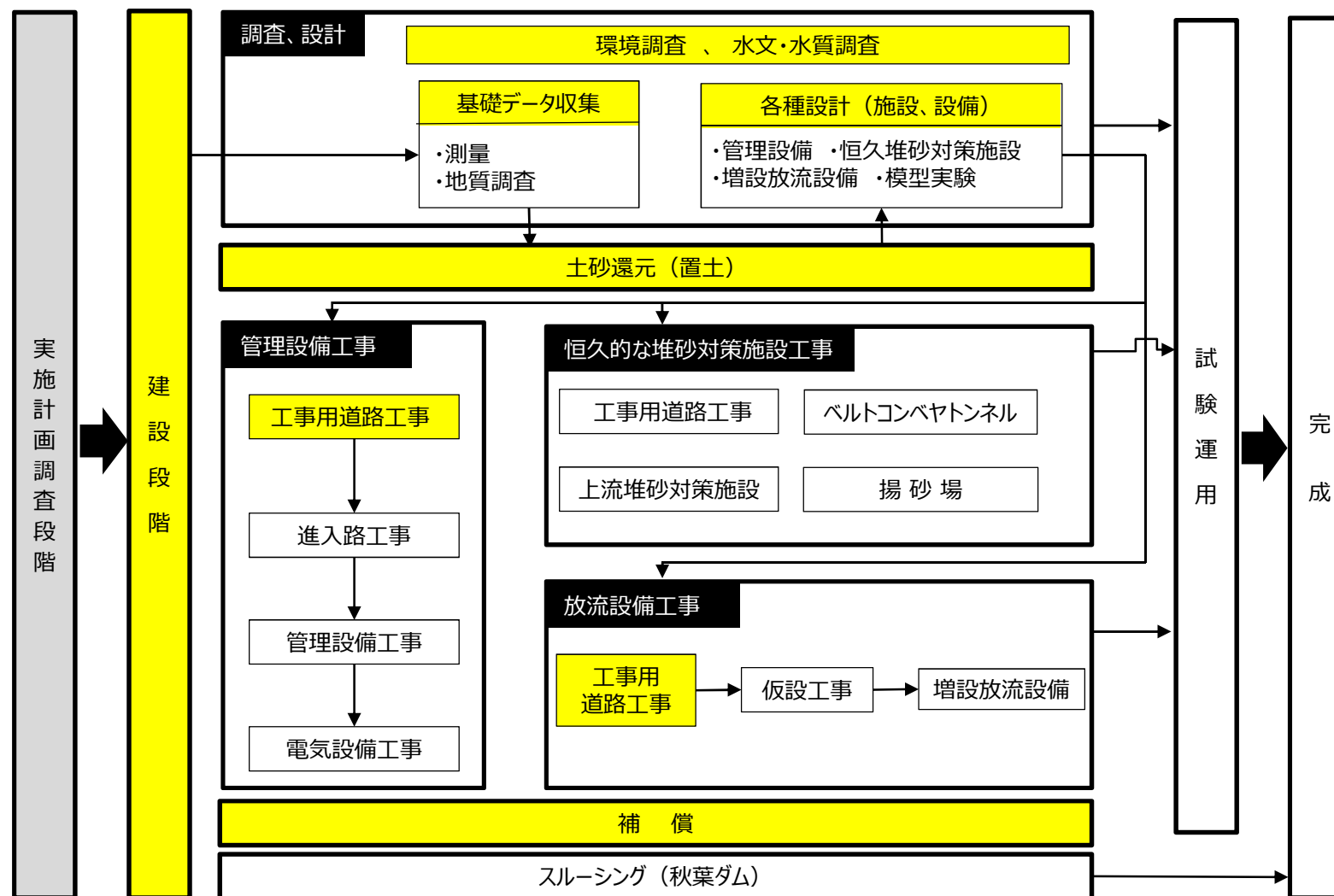


秋葉ダム貯水池において、他ダムの被災事例から、土砂を通過させる秋葉ダムスルーリング操作により生じる流水への対応を追加。

- 令和19年度までに増設放流設備及び恒久的な堆砂対策施設等の整備を完成し、試験運用等を経て令和20年度に事業完了の予定。

年度		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)	2038 (R20)
仮設備	工事用道路工事															
洪水調節	管理設備工事															
	放流設備工事															
	試験運用															
河川への土砂還元 貯水池の土砂維持	河川への土砂還元 モニタリング															
	堆砂対策施設工事															
	試験運用															
用地及び補償																

- 水文・水質調査、河川への土砂還元モニタリング、工事用道路工事及び関連する補償のほか、施設設計に必要な地質調査等の基礎データ収集、治水関連施設設計、堆砂対策施設設計を実施している。

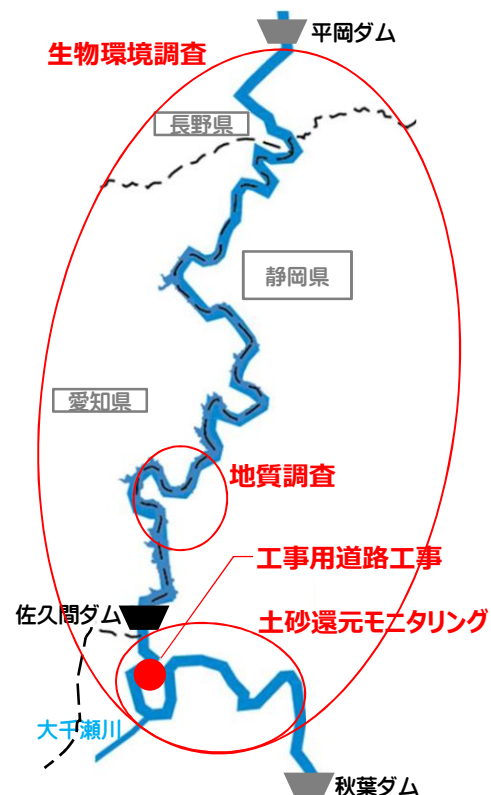


※工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合があります。

※実施中箇所は予算ベースに対しての着色を行っています。

■ : 実施済箇所 ■ : 現在実施中箇所

主な事業箇所



河床材料調査



工事用道路工事（拡幅）



採水分析



河川測量

土砂還元モニタリング



ボーリング調査



現場透水試験

地質調査



アユ生育調査



猛禽類調査（クマタカ）



両生類調査（カジカガエル）



植生調査（ムギラン）

生物環境調査

- 佐久間地区には豊かな自然と天竜川を軸とした文化に根差した祭りや食文化などの魅力あふれる資源にあふれ、「NPO法人がんばらまいか佐久間」や「#佐久間ダム際ワーキング」などが主体となって地域資源を生かした地域づくりに取り組んでいる。
- 三遠南信トライアングルの中にある佐久間地区の強みや地域資源を生かした地域づくりと協働しながら、住民が関わりやすいテーマを通じて事業理解の促進を図る。

佐久間地域住民による地域づくり

地域・世代を越えた交流



越境学習ツアー
(#佐久間ダム際ワーキング)

地域資源



森林伐採体験
(森林組合)



地域力向上



佐久間新そばまつり
(NPO法人がんばらまいか佐久間)

Etc.

文化伝承



純粋はちみつ
(ミキの会)

竜神まつり

協働・支援

地域と連携した取り組みの事例（佐久間新そばまつり）

- 地域有志等（NPOがんばらまいか佐久間等）を中心に企画する佐久間の大イベント「第25回佐久間新そばまつり」に天竜川ダム再編事業の理解促進・認知向上を目的に事業PRブースを設置した。
- 佐久間地域住民や浜松市等の事業受益地からの来場者を主体に、約500名がPRブースを訪問され、事務所職員とのコミュニケーションを通じて、事業内容のPRとあわせて、普段は得られない地域住民の想いの情報収集を行った。



参加型アートの様子



来訪者との対話がよく生まれました



天竜川ダム再編事業へ関心をもってもらう



天竜川や佐久間地域、新そばまつりへの想いを綴った花びら



子ども大人も夢中になれる、天竜川のお魚釣り体験



令和7年度事業内容【約10.13億円】（令和6年度 当初約10.08億円、補正1.60億円）※金額は工事諸費等を含む

○主な事業内容：治水関連施設設計、堆砂対策施設設計、管理設備用道路工事等

治水関連施設（増設放流設備）等の検討・設計

- 治水関連施設（増設放流設備）の検討・設計（R7当初）
 - ・増設放流設備型式の構造等について、コストや効果の早期発現等を含めた総合検討を実施
- 管理設備（電気通信設備）の設計（R6補正）
 - ・洪水時のゲート操作などを行うための電気通信設備の設計を実施
- 堆砂対策施設設計（R7当初）
 - ・堆砂対策施設（ストックヤード、揚砂場）の検討・設計を実施

管理設備検討・設計

増設放流設備検討・設計



ストックヤード検討・設計

揚砂場検討・設計

環境調査

- 佐久間ダムからの土砂還元による河川環境への影響調査（R7当初）
 - ・佐久間ダム下流への土砂還元の有無による影響を調査（採水分析、深淺測量、河床材料調査、アユ等の魚類生育環境調査等）
- 天竜川ダム再編事業による環境への影響調査（R7当初）
 - ・工事中及び事業完了後の自然環境に与える影響を把握するための調査（カジガエル等の両生類生息状況調査、クマタカ等の猛禽類生息状況調査、ムギラン等の植生状況調査）



採水分析・観測



河床材料調査



深淺測量



生育環境調査（アユ）



生息調査（カジガエル）



生息調査（クマタカ）



生息調査（ムギラン）

地質調査

○貯水池地すべり調査（R6補正）

ダム事業に関連する貯水池周辺の湛水に伴う地すべり等に対する対策の必要性を確認するための調査を実施

○構造物設計のための地質調査（R7当初）

増設放流設備などの構造物設計に必要となる地盤性状を確認するため、ボーリング調査を実施



ボーリング調査



現場透水試験

管理設備用道路工事等の整備

○管理設備用道路工事（R7当初）

操作室整備に向けた伐採及びパイロット工事を実施



管理設備イメージ

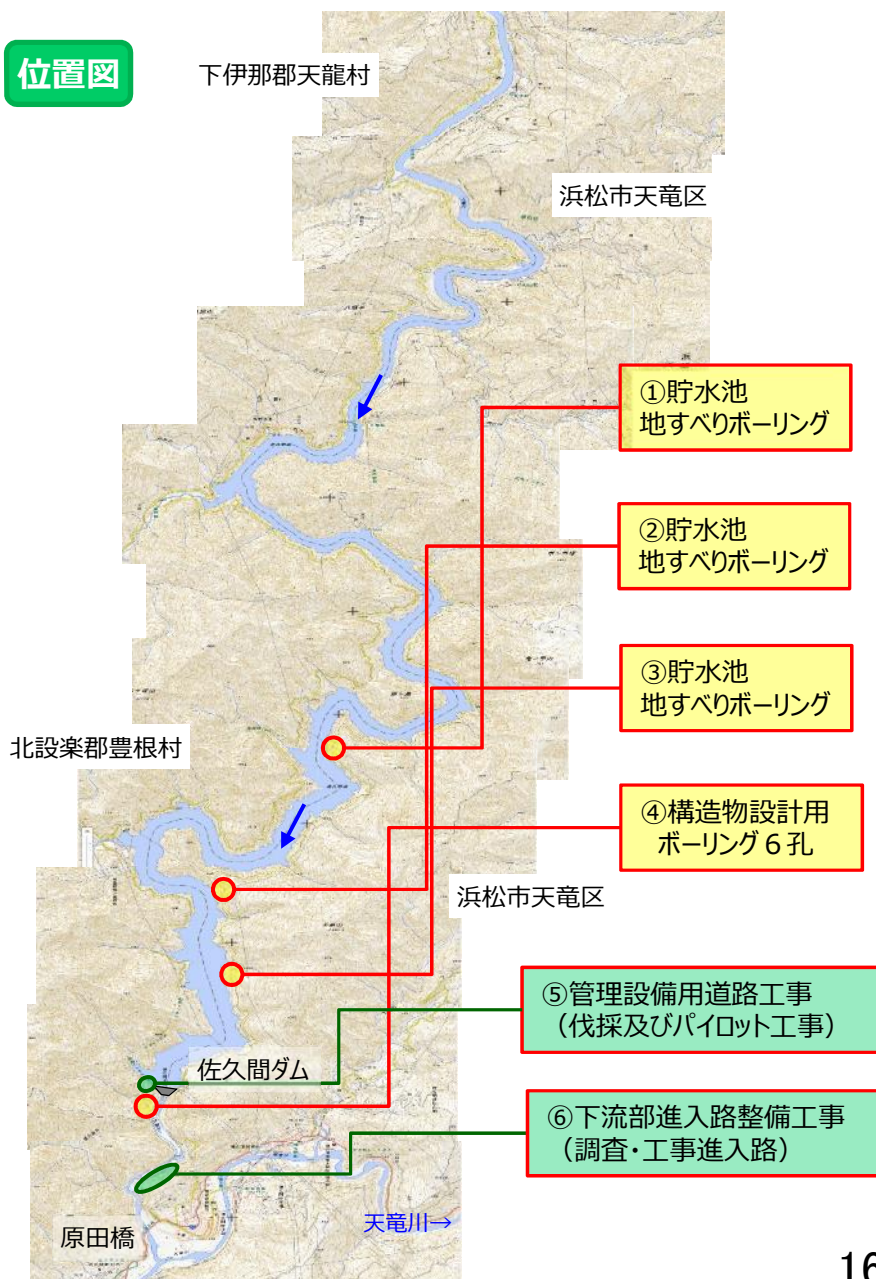
○下流部進入路整備工事（R7当初）

佐久間ダム左岸下流側からの調査・工事進入路として現道拡幅工事を実施



下流部進入路整備工事

位置図





国土交通省 中部地方整備局

天竜川ダム再編工事事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism,
Chubu Regional Development Bureau
Tenryugawa Dam Realignment Implementation Office

住所：〒438-0111 静岡県磐田市上野部2497-7

TEL: 0539-63-5071 (代)

FAX: 0539-63-5074

事務所HP: <https://www.cbr.mlit.go.jp/tendamukoji/oshirase/index.html>

公式X: [こちら](#) →



■総務課

事務所へのお問い合わせをはじめ、総合窓口業務、契約・経理、事業に必要な用地（土地等）を確保するための取得などの事務を行っています。

■開発工務課

天竜川ダム再編事業に係る設計や工事に関することを行っています。

■開発調査課

天竜川ダム再編事業に係る計画や試験・調査を行っています。

交通アクセス：

天竜二俣駅（天竜浜名湖線）より徒歩13分

伊折（遠鉄バス）より徒歩2分

新東名高速道路浜北ICから車で約10分

浜松駅（JR）より車で約40分

磐田駅（JR）より車で約30分

